



人と環境にやさしいトランジットモデル都市をめざして RACDA

第 257 号

2025/ 5

インバウンド全盛時代到来！ 公共交通で地域に新たな人流を

■2025年4月13日、ついに大阪・関西万博が開幕した。日本では20年前の愛・地球博以来。筆者も久しぶりの大規模なイベントに胸の高まりは隠せない。インターネット等の普及でわざわざ万博に行かなくても最新の知見は手に入れやすくなったのかも知れないが、各国の叡智が結集し、その地域の良さを体感するまたとない機会である。岡山からは両備バスが大阪シティバスへの運転手出向契約を結ぶ等、地域を超えた総力戦で万博輸送を支える。もちろん、地元でも運転手不足が続いており、万博へリソースを割くのは賛否両論があるかも知れない。しかし、各地域単独での生き残りが困難になってくる今日、エリアを跨いだ協力は避けて通れない課題となって来るだろう。特に西日本エリアでは万博を機に、大阪だけでなくさらに各地へと観光客を呼び込もうとする動きが活発になっている。

■会期中の来場者数は2820万人が目標(運営費の採算ラインは1800万人とする)となっており、近畿圏外からも約1000万人が訪れると見られている。2023年の岡山県への観光入込客数が約1500万人なので1970年の大阪万博ほどではないにせよ、非常に強い移動需要が起こることが見込まれる。岡山は新幹線で大阪から約1時間。万博会場の夢洲から見ても約2時間の距離である。万博を契機と捉え、いかに岡山を始めとする西日本エリアに観光客を呼び込むかは非常に重要な施策であることは言うまでもないだろう。

■そこで注目したいのが「西のゴールデンルート」への取組だ。西日本の自治体や交通機関が参画し、インバウンド向けに様々なモデルルートを紹介している。岡山県ももちろん参画しており、後楽園など岡山の観光地も紹介されているが、まだまだ心もとないところがある。岡山からは両備グループがパートナー企業として参画しているが、岡山の公共交通機関は他にも多様



※西のゴールデンルート HP より

にある。地元企業でしか分からない地域の魅力もまだまだ多くあるはずだ。待っていても顧客が来る時代はもう遙か昔に終わっている。自ら需要を作れる企業が今後は生き残れると肝に銘じる必要がある。

■そして、忘れてはならないのが観光誘致、住民誘致の双方で十分な利便性を担保することであろう。当かわら版でも何度か触れてきているが、一般に30分に1本の運行頻度を下回ると急速に日常使いとしては不便を強いられ、利用者や採算性が悪化することが多くの地域の傾向から明らかになっている。もちろん、各交通事業者の厳しい懐事情はよく分かるが今後幹線として育てたい路線についてはメリハリをつけた対応が求められるのではないかと考える。

■例えば岡山市内を発着する便で見ると今後、観光需要の取り込みも見据えるのであれば玉野・渋川特急路線は欠かせない。一時期に比べるとかなり本数も戻り、30分に1本に近いダイヤになりつつあるため、今後の発展に期待したい。今年瀬戸内国際芸術祭も控える。万博との相乗効果を狙わない手はないだろう。もし、一般の路線バス車両が不足しているのであれば観光の閑散期となるシーズンに貸切バスを充当・バスガイドも乗車させ、特別運賃を加算した特別便を用意してもいいのではないか。いわば、大都市圏で拡大しつつある座席指定車サービスのバス版である。特にインバウンドはコインロッカー問題も抱えており、大きなトランクルームを持つ貸切バス車両を市内交通に活かすメリットは大きい。通常の路線運賃よりも加算した料金で増収も見込める。まさに今、大きなチャンスが県外からやってきている。そして商売の基本は顧客の困りごとを解決することにある。事業者目線ではなく顧客起点で何が解決できるのか。交通事業者のマインドセットに期待したい。

備讃瀬戸アクセスマップ
配布中



NPO 法人公共の交通ラクダ(RACDA)
事務局 〒700-0823 岡山市北区丸の内 1-1-15 禁酒会館 3F TEL&FAX 086-232-5502
E-mail: info@racda-okayama.org
URL: http://www.racda-okayama.org

RACDA 検索

